

資料室だより 161

橋本先生の遺品より珍しい楽譜をご紹介します。ここにこういうものが残されたということも何かの縁ですのでせっかくだすからぜひ皆さんに利用していただきたいし、ここからコンサートのプログラムを考えてもいいくらいです。

Música Barroca Española, vol. V: Cantatas y canciones para voz solista e instrumentos(1640-1760)

これは Instituto Español de musicología スペイン音楽学会から出版されているスペイン古楽のシリーズなのですが、バロック時代のスペインという私たちにあまり馴染みのないジャンルで、しかもこの楽譜シリーズを日本国内の音楽大学で所有しているところはありません。ですから日本で唯一グレゴリオの家がこれを所有しているというのは貴重なことです。橋本先生はこれを 1975 年アムステルダムで購入されています。独唱と小編成のためのカンタータとカンシオネロです。

Johann Babtist Hilber(1891-1973): Messe zu ehren des Hl.Franz von Assisi

彼はケルン、チューリヒで学び、ルツェルンで活躍したカトリック作曲家で、主に典礼的な小規模な楽曲を残しています。先生はこの楽譜を 1977 年にケルンで購入されています。タイトルのとおりアッシジの聖フランシスコのためのミサ曲です。私自身存在すら知らなかった教会音楽家の作品が先生の手を通して資料室に入り、利用に供することができるのは喜びです。

序文に、「この小さなミサ曲は大きな聖堂で有名な合唱団が演奏するためのものではない。むしろ毎週のミサでつつましく歌っている聖歌隊の演奏が好ましい。“神の吟遊詩人”と自称したアッシジの聖フランシスコのために捧げられているのだから。それゆえアッシジの貧者の精神で歌うべきである」という趣旨のことが書いてあります。

Bach, J. S.: Der Geist hilft unser schwachheit auf BWV 226

バッハの葬送のためのモテット「聖霊はわれらの弱きを助けたもう」(バッハ作品番号 226)の自筆楽譜のファクシミリです。資料室ではこのような楽譜を購入することはしていませんので貴重なコレクションになりました。先生はこの楽譜をどなたかにいただいたようです。様々な経緯を経て資料室に配架されることになったバッハの自筆楽譜、どうぞ演奏のための研究用に役立ててください。